

【自己評価・教員アンケート】					教員結果	生徒結果	保護者結果	教員コメント (特に評価できる点/課題点)
基本方針	基本的方向	芦屋高校の実践目標	取組	質問事項	集計を4点満点で評価			
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	ア 知識・技能の定着 イ 思考力・判断力の鍛錬 ウ 表現力発信力の強化 エ 学びに向かう姿勢の確立 オ キャリア教育の充実 カ 「学び方」を学ぶ	教材の精選と指導の改善	生徒にわかりやすい授業をおこなうための工夫をおこない、適切な内容と量の課題を与え、学力を伸ばすことができた。	3.1	2.8	2.9	
			個々のニーズに合わせた支援の実施	「シラバス」等を活用し、生徒が将来への見通しをもって科目選択ができるよう支援することができた。	3.1	2.8	3.0	
			補習、小論文講座、面接指導の充実	生徒が自分の進路について考えを深め、進路実現を果たせるよう適切な支援・指導ができた。	3.1	3.0	3.0	
			「好き」を叶えるユニークな選択科目	「単位制」の特色を活かし、生徒の能力・適性、進路希望等に応じた選択科目の設置や教育課程を組むことができた。	3.0	3.2	3.1	
			観点別評価の実践	「指導と評価の一体化」について考察を深め、授業のねらいや評価基準などを明確に示し、適切な評価をおこなうことができた。	3.1	3.0	2.9	
「生きる力」を育む教育の推進	「豊かな心」の育成	ア 「自治 自由 創造」の実践	自治会組織の継承と発展	生徒が主体的に「自治」を行い、「自由」について考え「創造」できるよう、様々な教育活動の場面で生徒の支援にあたることができた。	2.9	3.0	3.2	【今年度の成果】 ・生徒自治の機会を重視したことで、行事運営など“主体性が実感しやすい活動”では生徒・保護者から高い評価が得られた。 ・対話を重視したトラブル対応が奏功し、生徒の他者理解・寛容性の向上につながった。 ・探究活動を通じて、社会課題への関心や自ら学びを深める姿が増えた。 ・外国人生徒への日本語指導設置により、個別ニーズに応じた丁寧な支援が実現した。 ・多国間の国際交流が大幅に充実し、多文化理解や国際感覚が育まれた。 ・教育相談体制が機能し、生徒支援が継続的に実施された。 ・学年間で主体性や規範意識を育てる取り組みが進み、成長が見られた。 【今年度の課題】 ・自治活動や探究は成果の可視化が難しく、生徒の手応え・教員の指導実感が得にくい。 ・基本的な生活習慣や倫理観に関する生徒・教員の認識差が大きく、評価基準の共有が課題となっている。 ・一部活動がリーダー生徒に依存し、生徒一人ひとりの主体性が十分に育っていない。 ・SNSの影響による言葉遣いの乱れなど、コミュニケーション能力の低下が顕著となっている。 ・国際交流に関する保護者への周知が不足している。 ・心身の不調を抱える生徒が増加傾向で、継続したケアができるような体制整備が必要である。 【今後の改善提案】 ・自治・探究の成果を可視化し、生徒が成長を実感できるシステム（振り返り・記録等）を整備する。 ・主体性・倫理観・コミュニケーション力の体系的育成を進め、SNSリテラシー指導を強化する。 ・生徒の意見表明や意思決定の場を増やし、「自分の意見が反映される」経験を意図的に積ませる。 ・国際交流について、保護者への情報発信（報告会・配信ツールなど）を充実させる。 ・生活習慣形成や規範意識向上のため、全年次共通の指導方針と基準を整える。 ・心身のケアについて、学校内連携（保健・教育相談）を強め、早期発見・支援体制を継続的に強化する。
			ルールやモラルを守る倫理観の育成	あいさつ・時間厳守・言葉遣い・服装など基本的な生活習慣を確立できるよう、適切な指導ができた。	2.7	3.3	3.2	
			生徒主体の記念祭（文化祭）・定期戦・体育祭	記念祭や体育祭、定期戦などの行事において、自治会を中心とした生徒主体の実施に向けて、支援することができた。	3.1	3.4	3.5	
		イ 探究活動の研究	総合的な探究の時間	「探究Ⅰ」「探究Ⅱ」「探究Ⅲ」を通じて、生徒が自ら学び考える力を育み、学問・社会への関心を高める支援ができた。	2.9	3.1	3.0	
		ウ 心・技・体の醸成	部活動の活性化	生徒の自主的な活動を尊重した部活動の運営、実施ができた。	3.2	3.3	3.2	
		エ いじめ・不登校への対応	いじめ防止基本方針、いじめ対応チーム	生徒の心のケア、いじめの悩み等に対応できるよう教育相談体制を整えて支援にあたることができた。	3.1	3.0	3.1	
		オ 国際理解を深める教育	外国人生徒の受け入れ	外国人特別枠選抜入学生に対して適切な学習支援を行い、進路実現に向けたサポートをすることができた。	3.3	3.0	2.8	
		海外語学研修の実施 台湾姉妹校との交流	海外語学研修の実施および台湾姉妹校との交流など、自国以外の人々と交流し視野を広げるための教育活動ができた。	3.3	2.9	2.5		

令和7年度 兵庫県立芦屋高等学校 学校評価

【自己評価・教員アンケート】

基本方針	基本的方向	芦屋高校の実践目標	取組	質問事項	教員結果 生徒結果 保護者結果			教員コメント (特に評価できる点/課題点)
					集計を4点満点で評価			
「生きる力」を進む教育の推進	「健やかな体」の育成	ア 健康安全教育 合理的配慮	個別の支援計画、指導計画の確立	生徒が健康意識を高く持ち、安全に学校生活を送るための取組をおこなうことができた。	3.0	3.3	3.4	【今年度の成果】 ・がん教育モデル校として、1年次に講演だけでなく希望者との座談会を実施し健康について深く考える学びの場を提供できた。 ・学期ごとの校内安全点検を実施し、点検項目の見直しを行いながら危険箇所の早期改善を進めた。 ・清掃用具の交換が進み、校内美化活動がこれまで以上にしやすい環境が整ってきた。 ・1年次では複数の支援対象生徒に対し、個別の状況に応じた適切な支援を行うことができた。 ・2年次では美化活動について大きな問題は見られず、一定の取り組みが継続されている。 【今年度課題】 ・廊下の清掃状況に改善の余地があり、美化意識の向上が必要である。 ・2年次の美化活動に関して、生徒と教員の評価に大きな乖離があり、その理由の分析が求められる。 ・美化活動や安全点検に対する生徒の主体的な参加と意識の醸成が、依然として課題として残る。 【今後の改善提案】 ・廊下清掃に対する意識向上のため、清掃方法の指導や美化活動の目的共有など、具体的な働きかけを強化する。 ・教員と生徒の評価乖離の原因を分析し、美化活動の評価基準や期待値を共有する仕組みを整える。 ・校内美化・安全に関する取り組みについて、生徒自身が目的や意義を理解し主体的に行動できるよう、説明・振り返りの機会を設ける。 ・支援が必要な生徒に対しては、学年・保健課・教育相談との連携をさらに強化し、継続的で安定した支援を行う体制を整える。
		イ 誰もが居心地のよい学校	健康的な生活環境の維持	教室や廊下など、学校の敷地内は整理整頓され、清掃はよく行われている。	2.6	3.3	3.0	
		ウ 命を尊重する姿勢	避難訓練、防災教育	災害発生時の集団下校体制の改善や地域と連携した防災教育の計画・実践を進め、避難訓練などの取組がよくなされている。	3.1	3.1	3.0	
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	ア ICT機器の活用	リモート授業の研究、推進	ICTを活用するなど、個別最適な学びや協働的な学習をめざした工夫をおこない、生徒の主体性や論理的思考力を育む授業ができた。	2.9	3.1	3.0	【今年度の成果】 ・公開授業週間・研究授業の実施により、授業改善に取り組み、9月の学校公開（芦高見学ツアー）は保護者評価が向上した。 ・地域との連携が深化し、防災訓練では自治会参加、中学生向け広報イベント増加により外部評価が向上した。 ・探究活動で芦屋市役所・小学校との協力が進み、「地域探究」「課題研究」が充実した。 ・進学費用に関する講演会を実施し、保護者支援を強化した。 ・1年次では保護者・生徒支援のため多くのICTツールを活用し、2年次・3年次でもミマモルメやClassroomを通じて連絡の迅速化を図った。 ・年次通信を計画的に発行し、LHRで内容を丁寧に共有するなど、情報伝達の工夫が進んだ。 【今年度の課題】 ・図書館活用に関する生徒評価が低く、今後図書館の活性化を検討することが必要である。 ・公開授業や研究授業について、教師の自己評価が低く、授業改善の機会として十分に活用されていない。 ・ICT関連の教師評価が昨年度より低下し、一定の定着により基準が上がっている可能性がある。 ・ICTツールが多様化しすぎており、1年次では「スリム化」の必要性が生じている。 ・2年次では、情報が生徒に十分届いていない可能性があり、伝達手段の再検討が必要である。 ・図書館の利用度が低く、探究活動や自習の拠点として十分に機能していない。 ・3年次では、生徒評価が教員・保護者評価と大きく乖離しており、認識差の原因分析が必要である。 【今後の改善提案】 ・公開授業・研究授業を、教員相互研鑽の場として位置づけ、参加促進と成果の共有を強化する。 ・図書館の活用方法を再検討し、探究活動・自習における機能強化や利用促進の企画を行う。 ・ICTツールの整理（スリム化）を進め、年次・全校で統一感のある情報発信体制を構築する。 ・生徒に確実に情報が届く手段を検証し、紙媒体・アプリ・Classroomなどを組み合わせた最適な伝達方法を確立する。 ・地域・外部機関との連携を継続強化し、「地域に開かれた学校」として探究・防災・広報の質をさらに高める。 ・生徒評価と教員・保護者評価の乖離について、要因を分析し、授業・情報伝達・学校運営への改善に活かす。
		イ 指導と評価の一体化	ICT教育における資質・指導力の向上	情報発信に伴う責任など、情報モラルの向上は図られており、情報リテラシーについて十分に指導できている。	2.9	3.3	3.0	
		公開授業週間、研究授業の実施など授業改善の取組	公開授業や研究授業などを実施し、相互に授業見学をおこない教科横断的に連携するなど自己研鑽につとめることができた。	2.6	2.9	2.9		
		ウ 地域への情報発信	年次通信等の発行 ミマモルメ（メール配信）の活用	学校HPや年次・各課からの通信、ミマモルメ等の利用により、生徒・保護者等に必要に応じた情報やメッセージが発信できた。	3.2	2.5	3.3	
		エ 家庭との協働	保護者との連携	年次集会や面談などを通じて、保護者と連携した教育活動をおこなうことができた。	3.2	3.1	3.0	
		オ 情報共有と組織的対応力	生徒主体のオープンハイスクール	多くの生徒が活躍するなど、充実したオープンハイスクールを実施できた。	3.2	3.2	3.1	
		あしかび会(同窓会)、PTA等との協働	記念祭や体育祭などの行事をはじめ、様々な教育活動においてPTAや同窓会と協力することができた。	3.4	3.2	3.3		
		図書館の活用	図書室や自習室を読書センター・学習センターとして活用した授業実践や放課後利用の促進等の働きかけができた。	2.6	2.2	2.8		
		カ 外部機関との連携	芦屋市、市内中学、小学校との連携活動	様々な専門家や地域の方々など外部講師を積極的な活用や、様々な事業の実施を通じて開かれた学校づくりをおこなうことができた。	3.2	3.4	3.1	

学校評議員からの評価と提言

学校評価について、生徒の成長や進路実現に向けてよく考えられた活動がなされていて総合的には高く評価する。以下の点については改善策を検討することをお願いしたい。

- ICTツールについて  
ICTの活用については、高評価だが、ツールの種類が多くなっているため、効果が分散されているように感じる。運用についてシンプルにする方が効果的ではないか。また、保護者用にはミマモルメ等を使って配信しているが、閲覧状況は高くない。閲覧状況を改善するためにはどうすればよいか。
- 「自由」と「規律」について  
規律を守る意識について、教員の評価（2.7）と生徒（3.3）で評価に差があるがどのように考えるか。本校の「自由」の伝統が厳格なルールの押しつけてはならず、あえて自由な環境を与え、失敗や他者との衝突を通じてマナーや配慮に気づかせる方針であるために生じた差である。また、教員は一定のルール化を必要と感じているので、生徒との評価の差として現れる。このような差についても地域や保護者が求める姿とのバランスを取ることも大切だ。
- SNSのトラブルについて  
SNSの普及により、言葉の簡素化から言葉足らずによる誤解などが発生し、生徒間のトラブルが増加の傾向にある。教員がファシリテーターとして当事者同士の対話による解決が不可欠となっている。
- リーダーシップのあり方について  
自治会（生徒会）役員のリーダー性は強いが、それ以外の生徒が一部のリーダーへの依存という課題がある。リーダーシップは先頭に立つだけでなく、目立たなくてもクラスを支えるメンバーシップも大切であることを伝えつつ、全体の主体性を育てて欲しい。
- その他  
進路実績についても成果を上げているが、国公立大学への進学者を増加して欲しい。勉強に集中する環境強化を図って欲しい。自習教室の充実や塾に行かなくて良い、と思える補習等の充実を検討して欲しい。運動部の強化を望む声が同窓会に多く寄せられている。近隣中学校との提携等を検討してはどうか。キャリア教育の観点から、同窓生を活用した「多様なキャリア講話の場」を作って欲しい。